

しみん基金・KOBE

NEWS



2000年7月発行
第2号

特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通1-1-1-203 (サンピア2F) TEL078-230-9774 FAX078-230-9786
E-Mail kikin@stylebuilt.co.jp URL http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/

崖っぷち「しみん基金」

去る五月二十三日に神戸青年会議所の主催で「崖っぷち神戸再生フォーラム」が開催された。震災後、はかばかしい復興が見られない神戸経済は崖っぷちに立っているとして、神戸JCとしての再生シナリオが提示された。

神戸JCの肝いりで本年一月にNPO法人として設立された「しみん基金KOBE」は、最初から崖っぷちに建てられた小屋のように不安定だ。何しろ設立の時期が悪すぎる。未曾有の大不況の最中に被災地で設立したのであるから、はじめから無謀であった。

大阪商工会議所の提唱により、大阪コミュニティ財団が設立された一九九一年はバブルの絶頂が過ぎかけた頃であった。大阪商工会議所では全国各地の商工会議所にコミュニティ財団設立を呼びかけ、趣旨に賛同する都市は多かった。のであるが、バブル崩壊であるに続くところは無かった。経済状況だけを考えると無謀であったが、市民活動への理解という点では追い風が吹いている。しみん基金KOBEは、現在のようないくつかの社会的状況に鑑み、経済界に多くを依存するのではなく、幅広い市民の支援により市民活動を活性化しようと言う、大阪コミュニティ財団とは異なるコンセプトによるコミュニティ・ファンドを目指した。

しかしながら資金集めの状況ははかばかしくなく、現在までのところ市民の幅広い支持を得ているとは言えない。われわれのコンセプトを広く訴え理解を得る努力がまだまだ不十分である。

市民団体の期待は大きい。先日の公開審査会では、先駆的で有意義な市民活動が数多く発表されたが、如何せん資金が足りず極く一部の活動にしか助成が出来ず、まことに無念であった。市民団体からは、助成はもろろん受けたいのであるが、しみん基金の存在自体を評価する発言が多く聞かれた。

六月十八日にはタイズ財団のバイク会長の講演会があった。彼等の差は気の遠くなるように大きいのだが、バイク財団でも設立当初は運営費に事欠いていたと言った。我々も何とか崖っぷちで持ちこたえて飛躍を目指さなければならぬ。

しみん基金・KOBE顧問

今田 忠

平成十一年度 第一回助成事業終了

昨年実施した平成十一年度第一回助成事業について、四月末をもって各助成対象団体からの事業報告を受け終了いたしました。審査員各位並びに各関係各位にお礼申し上げます。

紙面から

平成十二年度第一回助成事業
タイズ財団バイク会長来日
理事の横顔

ご案内



公開審査会

平成十二年度第一回助成事業

六月二十一日、あすてつぷKOBÉ(神戸市男女共同参画センター)にて、平成十二年度第一回助成事業公開審査会が行われました。今回は被災者救護、被災地復興、災害救援活動を目的とする活動に対する助成(特定助成)と、その他、当基金が認めるもの(一般助成)の二種類の助成となりました。分類については各申請団体において自己申告とし、書面上にてのアピールという形をとったため、中にはその境界線がわかりにくくなった部分も見られましたが、おおむね趣旨に沿ったものでした。

各助成決定団体へは事務手続きののち、七月中旬には助成金交付、十一月には事業報告の提示をしていただくこととなります。



助成事業を振り返って

常務理事 戎 正晴

法人格取得後初めての助成事業は、基金の財政事情から助成総額が三百万円という小規模な助成となりました。また、特定寄付からの助成が二百万円、一般寄付からの助成が百万円という内容であったために、助成申請団体がどれだけ集まるのか不安がありました。実際、申請期間十日間の出足は悪く、このままでは公開審査会を開催できるか心配をしておりました。しかしながら、後半になって漸く申請が届きはじめ、事務局への問い合わせや、訪問が相次ぎ対応に追われる場面もありました。やはり、事前の告知が甘かったのではないかと反省しております。申請数は二十六団体(特定助成十団体、一般助成十六団体)となり、前回の助成申請数三十九団体からは減少致しましたが、助成総額から考えますとまずまずといったところではなかったかと考えます。

今回も理事の皆さんに申請団体へのヒアリングを行って頂きました。ヒアリングに伺うとその団体に情(?)が移るのか、担当した団体をなんとかしてあげたいという声が多く聞かれました。実際にご自分の使用しなくなったパソコンを謹呈された理事や自らの団体と新しいネットワークをお持ちになられた理事もおられました。公開審査会までの流れは前回の教訓をいかしながらスムーズ(?)に進んでいきました。審査員数も前回より新たに六名の先生方をお願いし、また、申請団体への質疑応答の時間も十分に取ったスケジュールで万全の体制(昼食抜きという強行軍でしたが)をもって公開審査会に臨みました。毎回のことですが、審査員の先生方にはお忙しい中大変なご苦労をおかけしました。

厳正な審査の結果、特定助成が四団体、一般助成が二団体選ばれました。どの団体も本当に素晴らしい活動をされており、基金の財政が許せばもっと多くの団体に助成したかったというのが感想です。そのためにも、しみん基金・こうべを市民の方々に周知して頂くための手法を事務局として考えて参りたいと思います。前回、助成を受けた団体や今回の申請団体からもしみん基金・こうべの意義と助成に対する柔軟性を評価する声を多数いただきました。一人ひとりの市民が市民活動全体を支える」という原点に立ち戻り、我々自身がその声に応えるべく更なる努力をしていかなければなりません。皆様方の倍旧のご支援、ご協力をお願い致しまして報告にかえたいと思います。

なお、惜しくも落選した事業に対し授与される草地奨励賞には、「コッキリの会(民族子ども会) サマーキャンプ運営委員会」の「コッキリの会(民族子ども会) サマーキャンプ」が選ばれました。

助成団体名	
事業内容	
特定助成	西宮移送サービス 被災地に係わる障害者・高齢者への移送サービス
	ワールド・キッズ・コミュニティ ワールド・キッズ・コミュニティ・プログラム
	神戸いのちの電話 神戸いのちの電話・電話相談
	東灘・地域助け合いネットワーク 被災された高齢者・障害者のためのカルチャー教室
一般助成	ポリオの女性の会 ポリオ会通信発行
	中央区むつみ会グループホームやすらぎ グループホームの施設整備及び運営

タイズ財団・バイク会長来日

去る六月八日から二十日、サン・フランシスコのタイズ財団・タイズセンターの創設者で現会長のドラモント・バイク氏が来日されました。

八日に神戸にてウエルカムパーティーの後、全国各地を講演。十八日には神戸クリスタルホールにて講演会を行いました。「NP0支援の三種の神器とは？」と題された講演では、タイズ財団の成立ちからまでのさまざまな取組みや、インターネットを有効に活用した資金集めからバイク会長のプライベートに至るまでNP0のA to Zを分かりやすく説明していただきました。今では米国を代表する中間支援団体であるタイズグループも、バイク会長の給料が出るまで五年間かかったなど、NP0の業務に従事する者にとって「勇気付けられる」内容であったのではないのでしょうか。

なお今回の講演は全国五ヶ所の中間支援組織の共同企画によるものです。



ドラモント・バイク氏

バイクさんに会って元気ができました

六月八日に関西空港でバイクさん親娘を出迎えて二十日に帰国されるまで、それまでの準備期間が長かっただけに、あつという間であつたような気がします。私自身は、一昨年のサンフランシスコツアーではタイズ財団へは行かなかつたので、昨年の参加者に聞いた「社会改革財団」とか「コミュニティ財団」という言葉から強いインパクトを受けていました。何となく学生運動の闘士のイメージを抱いていた私の前に現れたバイクさんは、穏やかで眼の優しい気さくなアメリカ人でした。

神戸に向かうタクシーの中では、それまで英語は苦手なので会話はまかせますといっていた黒田理事長が、早くも岡部さんを通訳に寄付金集めの手口(！)について質問を浴びせていました。いくつかのアメリカでも採られている方法が紹介されましたが、日本でも試してみる値打ちのありそうなものがいくつもありました。また、大口の寄付をねらうより少額でも広い範囲から集めることの有効性や、助成実績の視覚的アピールの重要性など我々の努力の及ばない点を多く指摘されました。

神戸の講演でも、タイズの組織拡大に伴う運営の民主性をどのように担保しているのかという質問に「民主性」より「参画性」を重視していると答えたのが印象的でした。市民活動における日米の違いと大きく大げさですが、神戸で育つた新しい「参画民主主義」を大切にしたいと感じました。

肝心のお金集めの手口ですが、正直言ってどれもやれそうなことばかりでした。我々に欠けていたのは、まさにアイデアと行動だったのでしよう。今ある資金を減らさないことに汲々としても寄付金は集まりません。少しお金をかけてだれが持つても使える戦略的募金ツールを皆で考えようではありませんか。もちろん助成を受けたい団体の協力も得ながら。

神戸復興塾委員長
しみん基金・KOBE理事

野崎 隆一

会員数と寄付

(本年四月〜六月)

会員数

正会員

個人三四名

団体 六名

賛助会員

個人六二名

団体 九名

寄付者一覧

堀内正美、佐々木美智代、中島秀男、
新神戸オリエンタル劇場、山本俊喜、
神戸青年会議所、(株)憶良、
しみんくりーんうをしく、小林まゆみ、
こうべいウオーク実行委員会、藤原靖子、
市民活動広場、八尾佳子、高木清、
被災地NGO協働センター関連団体、
飛田雄一、小柴秀代、井上平三、
(順不同敬称略)

●寄付総額

二、六一四、六五七円

賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円
団体会員 年間 10,000円

振込口座

さくら銀行 三宮支店 普7965892
みなと銀行 本店営業部 普1597921
近畿ろうきん 神戸支店 普4161854
郵便振替 00990-5-157334

口座名義

「しみん基金・こうべ」

理事の横顔



コープともしびボランティア振興財団・理事

井上 倫代

震災後間もなく設立したコープこうべのボランティアセンターで「赤ん坊のミルクがほしい」「父親の食事を手伝ってもらえないか」「水がほしい」などなど、被災した市民の要望を受け、コープディネートに取り組んでやがて五年半になりました。現在は車椅子での通院介助や、共同作業所支援の要望など、高齢者・障害者に対するものが大半を占めています。要請がある度にボランティアを募集し、小グループを作って活動します。

これらの小さなグループを、財政面から支えるなど、ボランティア活動の振興を目的として、コープこうべの福祉文化事業積立金からの拠出を主に、組合員の募金や、震災時に寄せられた全国からの支援金などを基本財産として「コープともしびボランティア振興財団」が、一九九六年に設立されました。この財団も「しみん基金・KOBÉ」もみなさんの善意によってのみ成り立つものです。一層のご理解とご支援をお願いいたします。

神戸の竹炭

「1・17神戸に灯りを」で使用された竹は竹炭として生まれかわります。



全国各地から集められた数万本の竹は、は震災追悼行事で使用された後、竹炭としてリサイクルされます。また、竹林の維持管理のためにも定期的な伐採が必要です。竹のリサイクルと里山保護のためにも竹炭をお役立てください。

ごはん 水臭さが消え、ふっくらとおいしいごはんが炊き上がります。

お部屋 マイナスイオンの働きで森林浴と同じリラックス効果がえられます。

冷蔵庫 脱臭と除湿の効果がありません。

お風呂 湯が長持ちします。野菜室に入れば野菜が長持ちします。

花瓶や水槽 体の芯からポカポカ温まります。水が長持ちするように、お花や魚がいきいきします。

ガーデニング 使い終わった竹炭はガーデニングに再利用できます。

100g(袋入り) 400円(送料別途)

この内50円は社会貢献事業のために活用されます。ご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

バンブーCOOP

653-0038 神戸市長田区若松町二丁目13の1

PIAZZAビル2F

TEL/FAX 078-612-1981

E-mail bambboo@kba.att.ne.jp

URL

http://home.att.ne.jp/sky/bamboo/top.html

車いすの海水浴

兵庫県移送サービスネットワークでは車いすの海水浴を行います。場所は、大蔵海岸(八月十三、二十、アジュール舞子(八月三日、気比の浜(八月二十四日、二五日(一泊二日)、新舞子浜(八月六日)、それぞれ参加者とボランティアを募集しています。詳しくは☎078-969-2755、同本部までお問い合わせください。

しみん クリーン うおーく

神戸市民交流会では、これまでもクリーン作戦を行ってきましたが、まだまだ神戸のまわりが汚れていることから、今春から新たな重点活動としてクリーンアップ作戦「しみんクリーンうおーく」を毎月第一日曜日に各地で行うこととしました。この「しみんクリーンうおーく」は、単なるクリーンアップ作戦ではなく、「しみん基金・KOBÉ」への寄付も募ります。さらに今後いろいろな行事と共催したり、ゴール地点でフリーマーケットを開催するなど、複合型の事業をめざしていきます。

八月は八月六日にJR須磨駅九時にスタート。水族園(下中島公園)交流まーけつと開催です。

あとがき

行って来ました花博！
暑くて暑くてふらふらになり
ました。ちなみに私のおすず
めグッズは、花博会場で限定
販売のポストカードです。郵
便ポストもカードを入れると
音楽が鳴る機体でした。
是非お話し下さい。かわい
いので記念写真もお忘れなく！
(み)

いやはや、いろんな行事が
続いているうちに、NEWSの
発行が遅れてしまいました。
前号での予告では六月だった
のですが、もう梅雨も
明け、真夏の真夏の
太陽が照らしています。あら
ためにおわび申し上げます。
(や)